

特許証を手にする尾鍋代表取締役申ら＝松阪市役所で



三重大などと開発 松阪の尾鍋組が特許

盛り土崩壊防止へ 地下水効率的排出

More Interesting Economy みえ経済



発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811

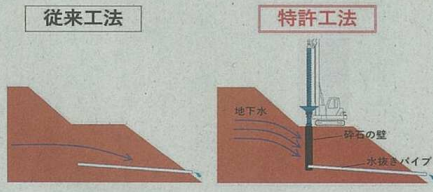
松阪市飯高町宮前の建設会社「尾鍋組」は、盛り土内部の地下水を効率的に排出する新技術を三重大などと共同で開発し、今夏、特許を取得した。同社開発の「エコジオ工法」を応用した技術。盛り土が被害を大規模化させたとみられる静岡県熱海市での土石流災害をはじめ、盛り土の崩壊が不安視される中、被害を防ぐ効果的な手段として期待が集まっている。

エコジオ工法は、小さく砕いた自然石を地中に柱状に埋め込んで地盤を強化する技術で、住宅の地盤改良などに使われている。透水性の高さを生かして、二〇一一年に発生した東日本大震災の被災地での液状化対策にも活用されてきた。

新技術は、直径四十センチ、深さ五メートルの柱状の砕石を連

ねて「壁」をつくり、下部に取り付けたパイプから外部に排水する仕組み。側面に穴が開いたパイプを地中に差し込んで排水を促す従来の方法よりも、上流からの水を効率的に集めて排出し、地下水位を下げることができるという。

豪雨や地震の発生時に盛



⑤従来の工法と、エコジオ工法を応用した新技術の比較図
⑥仙台北部道路での施工の様子＝宮城県富谷市で（いずれも尾鍋組提供）

り土の崩壊が問題となっていることを受け、三重大や高速道路総合技術研究所（東京都）などと開発を進め、一七年に特許を出願。今年七月十九日に認定された。

この技術はすでに、宮城県の仙台北部道路で使われている。一三年、東日本大震災で盛り土の一部が崩れた同道路の一部区間に施工



したところ、中にたまっていた地下水位が下がるなど効果が確認されているという。

尾鍋哲也代表取締役兼社長は「盛り土の崩壊には地下水が影響していることが多く、災害が起きる前に水位を下げておけば被害が起きにくくなる」と新技術の必要性を語った。

(望月海希)